

## 現状

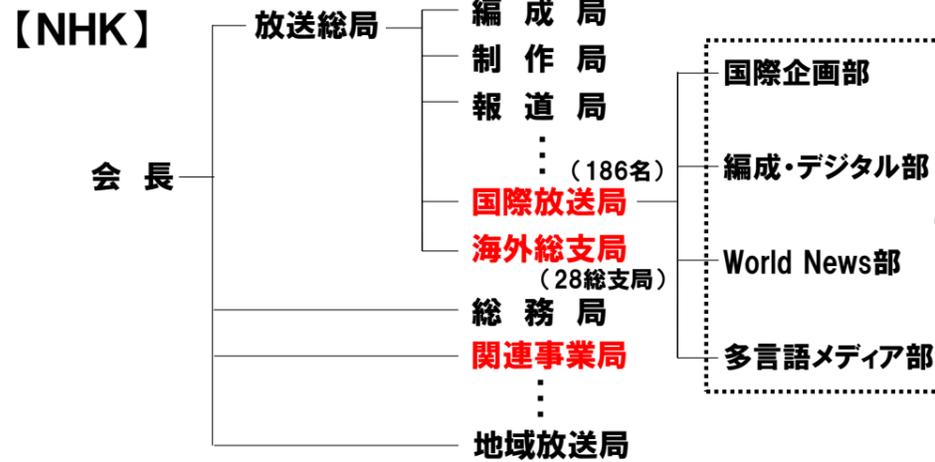
## 考えられる充実強化の方向性

### 1 外国人向けテレビ国際放送(NHKワールドTV)

本検討会のプレゼンや意見交換等において指摘等された事項

総務省、NHK及びその他関係機関において取り組むことが期待される事項

#### (1)実施体制

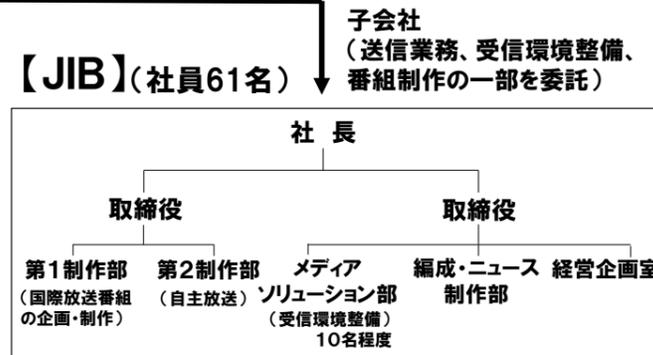
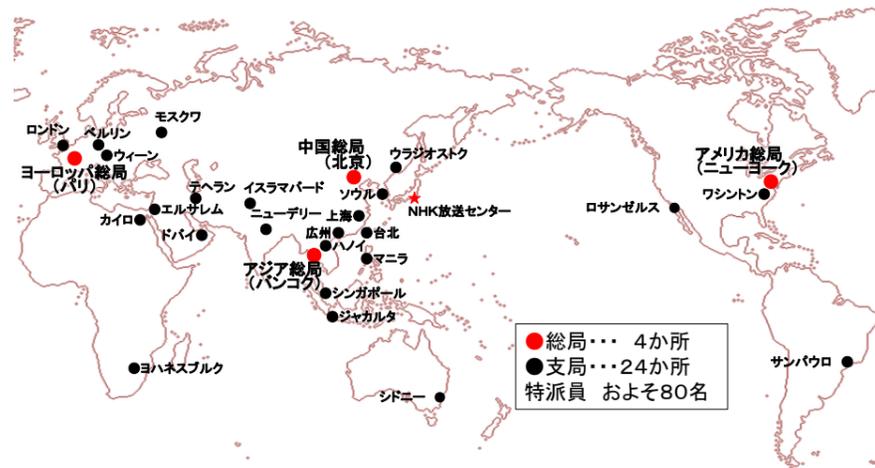


指摘等

- ・国際放送局のほか複数の局(報道局、制作局、地域放送局等)の間の連携が不足。
- ・海外総支局は国内放送を中心とした人員配置で、国際放送専門の人員体制が不足している。
- ・NHK・JIB(日本国際放送)役職員、特派員とも、外国人はわずか。
- ・国際放送のための独自採用はなく、海外特派員が帰国したときに活躍できる場が少ない。

例えば、以下のような取組などを通じて、国際放送部門における人材や実施体制に厚みを持たせることが考えられる。

- ・ NHK内の組織間の垣根を越えて、限られた資源の有効活用を進め、効果的・効率的な実施体制を構築する。
- ・ 東南アジアにおいて拠点の充実を図る。
- ・ 海外拠点等の実施部門を中心に効果的に外国人を登用。
- ・ 国際放送を念頭に置いた人材育成、幹部役職員などへの登用。



・日本そのものの発信力をいかに高めるかがポイント。日本が何を発信していくのか明確にする必要がある。

・60～90年代においては日本の経済力が情報発信力の根源にあったが、今は異なる。日本の存在感を世界に知らしめるような情報を発信すべき。

・NHKには表現の自由、報道の自由が確保されていることがCCTVと決定的に異なる点であり、そのことを世界に示すことにも意味がある。

・もっと日本という国の文化や政治、ローカルな問題など、日本のあるがままを見せた方がよい。日本がもっと世界から好意を持たれるような番組構成にしていくべき。

・日本国にとって重要な課題、正確な日本の状況、日本の文化的背景や特徴をポジティブに発信し、国際的な理解を醸成することが重要。

・認知度等を高めて行く上で、BBCやCNNにない、NHKワールドならではの強み、特徴、良さを打ち出す。その一環として、世界のオピニオンリーダー等を念頭に、「NHKワールド＝アジア情報を発信する信頼できる代表的な国際放送」との世界的な評価の確立を目指し、アジア発のニュース・情報発信の質的向上を図ることが考えられる。

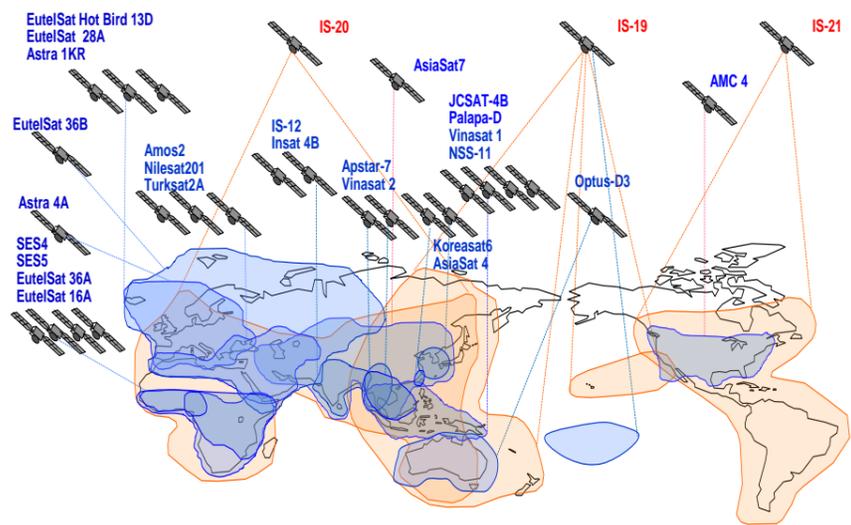
・こうした中で、我が国の自然・文化や社会・経済・地域のありのままの姿はもとより、我が国の重要な政策及び国際問題に対する公的見解を正しく伝えることにより、我が国に対する正しい認識・理解・関心を培い、及びその普及を図ることが期待される。

・テレビの副音声などの手段を活用し、地域の言語を付加する多言語化に向けた取組を段階的に進めることや、インターネットでも複数言語音声で同時配信する取組を進めることが期待される。

・NHKにおいて、字幕の自動翻訳技術の試行について検討。

#### ①放送

○NHKワールドTV(外国人向け):1チャンネルで英語のみで放送。



※NHKワールドプレミアム(邦人向け):1チャンネルで日本語放送(一部副音声)

# 現状

# 考えられる充実強化の方向性

## ①放送(つづき)

○NHKワールドTVの構成

8:30	NEWSLINE 情報番組①	11:30	NEWSLINE 情報番組④
9:30	NEWSLINE 情報番組②	12:30	NEWSLINE 情報番組⑤
10:30	NEWSLINE 情報番組③	13:30	NEWSLINE 情報番組⑥

6時間を1サイクルとして、一日4回放送  
(※ニュース内容は毎正時更新)。

(情報番組の例)



・ASIA BIZ FORECAST  
アジア経済のダイナミックな動きを世界に向けて発信する経済番組



・Dining with the chef  
和食の智慧と真価を世界に広める料理番組

〔本検討会のプレゼンや意見交換等において指摘等された事項〕

### 指摘等

- ・NHKの主体的自由を確保しつつ、この検討会が設置された背景には、中韓によって間違った史実が反日工作として世界に喧伝されていることに対し日本がフェアにして有効な反論をできていないことに留意する必要がある。
- ・諸外国では多言語放送の例も多い。  
(例:CCTV:6言語、フランス24:3言語)
- ・多言語化には、チャンネルや翻訳精度の確保が必要。
- ・CNN、BBC、アルジャジーラ、CCTV等の国際放送に比べて存在感が低い。
- ・多様な情報番組とニュースが放送されているが、限られたチャンネルの中、視聴者ターゲットをより明確化させる工夫が必要。
- ・「日本の国益」ということをやり過ぎると、宣伝のように見える。
- ・BBCワールドサービスは、一方的なメッセージの発信ではなく、双方向的で国際的に共有される考えを提示することで、英国についての理解を向上させている(パブリック・ディプロマシー(PD))。
- ・外国人を含めた様々なバックグラウンドを持ったスタッフの存在が、英国におけるPDとソフト・パワーになっている。

〔総務省、NHK及びその他関係機関において取り組むことが期待される事項〕

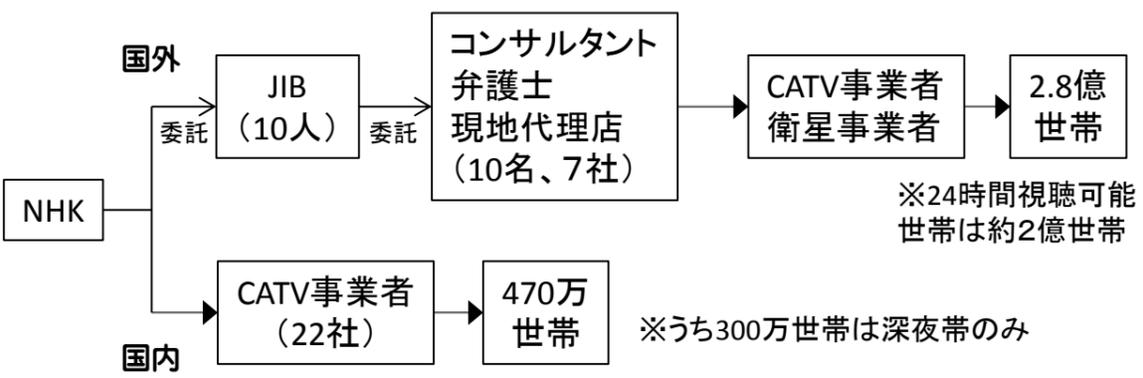
- ・今後のNHKワールドTVの方向性については、①現行どおり、ニュースと情報番組を放送する、②ニュースに特化した放送とするという2つの考え方があがるが、まずは、原則、上記①のもとで、世界各地毎に十分なマーケティング調査を行いつつ、  
(ア) インターネットを活用した「24時間ニュース」配信  
(イ) 放送により情報番組の一部のみを紹介し、当該番組全体はインターネット配信  
等の取組を試行的に行い、視聴者の反応を見つつ、検討することが考えられる。
- ・NHKワールドのニュース素材を世界の現地放送局等へ提供し、現地語で放送してもらう取組を強化することも期待される。

## ②インターネット活用

- ・放送と同時のライブ配信や、スマホ、タブレット向け無料アプリを提供。
- ・NHKワールドのインターネット活用は、国際放送局内の数名の職員と外部スタッフで担当。

- ・フェイスブックなどSNSも活用しているが、利用は限定的。
- ・放送のチャンネル増は予算面や世界各地でのチャンネル確保等の観点から困難であり、放送との連携も図りつつ、インターネットのより一層の有効活用が必要。

## ③受信環境整備



- ・JIB(日本国際放送)自体の海外拠点はなく、受信環境整備やプロモーション業務等は10人程度の体制で海外営業経験に乏しいのが実態。
- ・多チャンネル放送が行われている海外の衛星・ケーブルテレビにおいて、NHKワールドはチャンネルが視聴者の目にとまりにくい。
- ・国内CATVやホテルへのなお一層の働きかけが必要。

- ・話題性のあるコンテンツを外部プラットフォームを通じて配信したり、ソーシャルメディアにより広めることが考えられる。  
(ア) インターネットを活用した「24時間ニュース」配信  
(イ) 情報番組は、インターネットを活用し、放送と同時にライブ配信を行うとともに、放送後オンデマンドでも配信(オンデマンド配信される番組は、一部を放送で周知)  
等の取組を試行的に行い、放送とネットの連携を推進することが考えられる。
- ・シニア世代も含め、海外営業経験の豊かなJIB(日本国際放送)の社員で構成される専門の海外営業チームをつくるなどの体制整備が期待される。
- ・受信環境整備については、特に、世界のオピニオンリーダーが多く集まる、あるいは国際機関等が多く所在する都市(ワシントン、ニューヨーク、パリ、ジュネーブ等)や、我が国が属するアジア地域において、取組を強化することが期待される。
- ・視聴者の目にとまりやすく、アクセシビリティの高いチャンネル番号の確保が望ましい。
- ・国内のCATVやホテルへの取組を強化することが期待される。CSを活用した番組提供についても推進。訪日外国人の増加が見込まれる2020年の東京オリンピック・パラリンピックも念頭に置く。
- ・国においても、受信環境整備等のための支援を行うことが期待される。

# 現状

## ④認知度等

H25年度 主要国際放送の名称認知度(NHK調査)

	NHK ワールド*	BBC	CNN	CCTV	アルジャ ジーラ
イギリス	7.8%	85.9%	74.3%	30.8%	46.0%
ワシントン	10.8%	80.6%	61.7%	15.7%	53.1%
シンガポール	39.7%	76.8%	77.6%	59.3%	18.4%

本検討会のプレゼンや意見交換等において指摘等された事項

指摘等

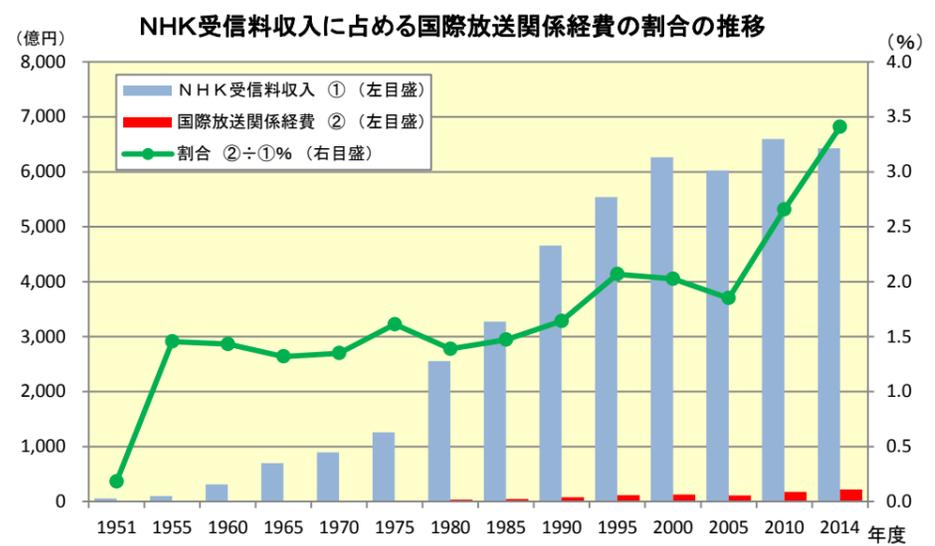
- ・BBC、CCTV等の国際放送に比べ、認知度が低い。(特に北米、欧州で顕著)。

# 考えられる充実強化の方向性

総務省、NHK及びその他関係機関において取り組むことが期待される事項

- ・国際空港でのプロモーション視聴、各国現地イベント、インターネットを活用したイベント等を通じたプロモーション活動の更なる強化が期待される。
- ・NHKワールドのニュース素材を世界の現地放送局等へ提供し、現地語で放送してもらう取組を強化することも期待される。(再掲)
- ・国においても、認知度向上に向け、プロモーション活動強化のための支援を行うことが期待される。

## (2)財源



- ・国際放送の事業費のNHK受信料収入に対する比率はおおむね3%程度。(国際放送事業費214億円/受信料収入6,428億円)
- ・テレビ国際放送の充実・強化のためには、受信料財源の更なる投入が必要だが、あわせて国民の理解の醸成が必要。
- ・予算が必要なのであれば、予算措置を進める必要がある。
- ・海外情報発信の強化は当然必要だが、組織体制の厳しい見直しも必要。

- ・引き続き、受信料財源を活用。(NHK受信料収入に占める国際放送関係費の割合は2014年度で約3%であるが、今後3年間において、効果的・効率的な実施体制を構築することを前提に、当該割合5%をめどとして必要な財源を確保する。)

## (3)NHK・JIBの役割・組織の在り方

JIB受信環境整備の実施体制



- ・外国人向け国際番組は、国内番組とは視聴対象・制作手法、送信の仕組みが異なるが、NHKは国内放送中心であり、JIBを含めたNHKの国際放送部門は、強力な主体性を持って事業展開を行っていない。
- ・JIB独自の海外拠点はなく、体制が弱い。
- ・世界の現地主要メディアとの連携が不十分。

- ・NHK本体(国際放送局)と連携しつつ、例えば以下のような取組により、まずはJIBの機能をより一層強化することが期待される。

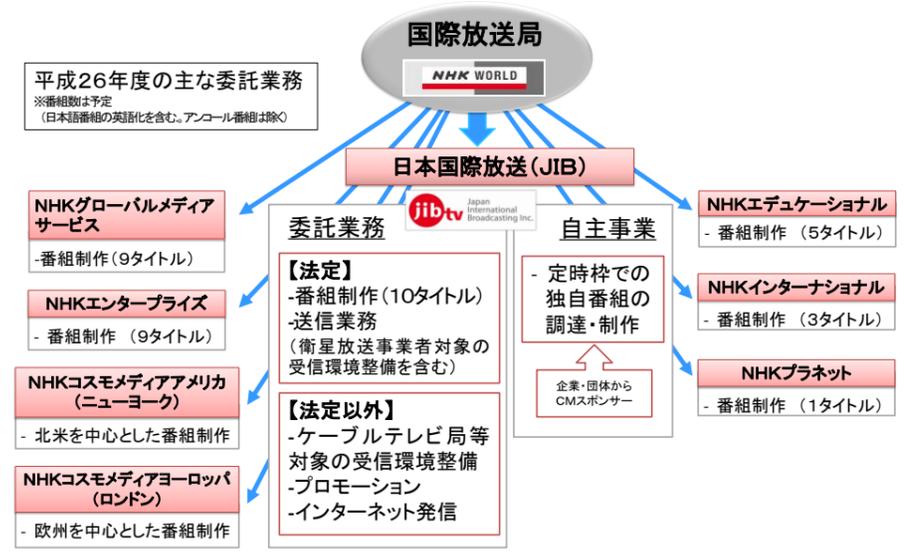
- ① 受信環境整備及びマーケティングの推進体制を強化。例えば、シニア世代も含め、海外営業経験の豊かなJIB社員で構成される専門の海外営業チームをつくるなどの体制整備が期待される。(再掲)
- ② NHKワールドの番組制作を全部受託し、JIBの管理の下、その他の番組制作事業者へ業務委託する枠組みを構築
- ③ NHKワールドのニュース素材を世界の放送事業者等へ提供
- ④ 人事体制を見直し

- ・その上で、組織体制の抜本的見直しや、法制度面を含む見直しの要否は、さらに引き続き検討。

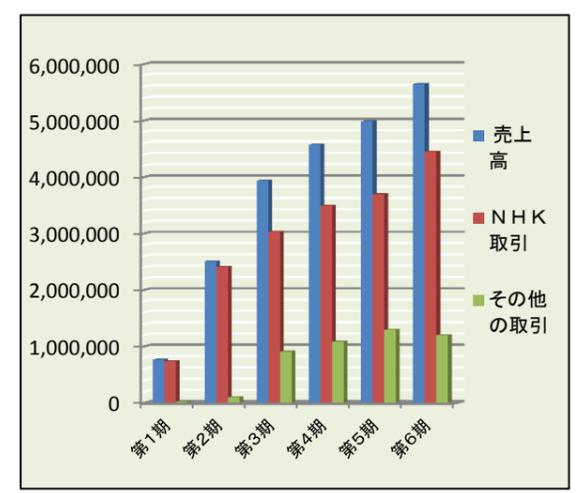
# 現状

## (3) NHK・JIBの役割・組織の在り方(つづき)

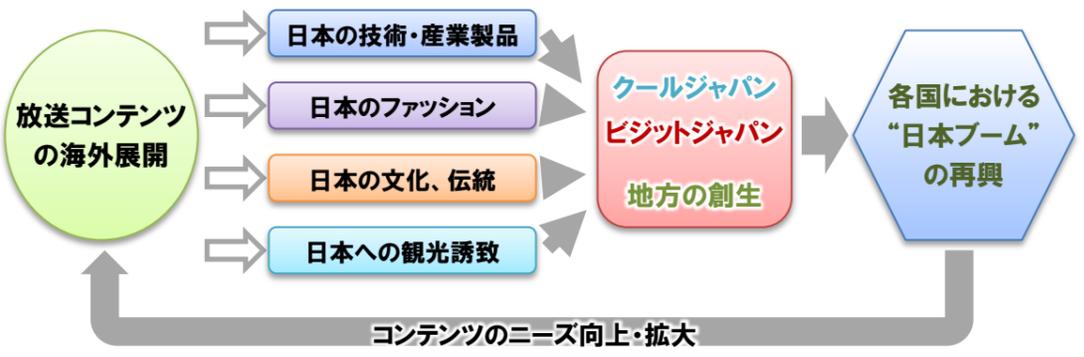
### NHKから関連団体への委託



### 財務状況の推移



## 2 コンテンツ海外展開

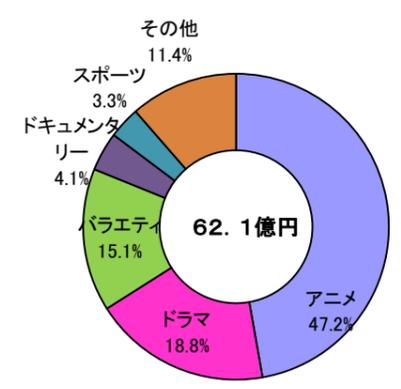


本検討会のプレゼンや意見交換等において指摘等された事項

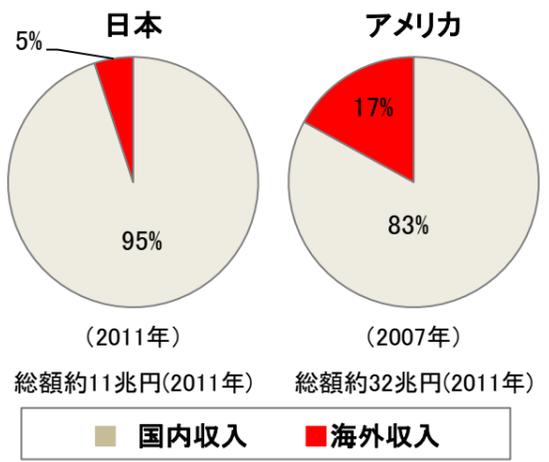
総務省、NHK及びその他関係機関において取り組むことが期待される事項

- 指摘等
- 日本の四季や自然など、英語にすべき番組はたくさんある。
  - インターネット配信を含めた海外展開ができるような権利処理の円滑化が課題。
  - 韓国は国家戦略として文化と産業をセットで輸出。
  - 地方には埋もれたコンテンツがたくさんあるが、現状では地方発の海外展開が不十分。
  - 観光客の誘致、地方の地場産業等の周辺産業との連携、日本の伝統・文化の紹介といった幅広い観点でのコンテンツの制作・発信が必要。
  - 日本コンテンツの一方的な発信だけでなく、海外現地のニーズを踏まえた発信に向けた取組が重要。

【番組放送権の輸出額】(ジャンル別)



【日米のコンテンツ収入の比較】



- 我が国の海外情報発信強化の柱として、外国人向けテレビ国際放送(NHKワールド)に加え、コンテンツの海外展開は重要な取組。
- BEAJをはじめとする関係機関(日本政府観光局(JNTO)、クールジャパン機構、国際交流基金等)がよく連携し、オールジャパン体制でコンテンツ海外展開を促進。国家戦略としての「観光客の誘致」や「産業の活性化」、「地方の創生」に寄与。さらに、国際社会に貢献・寄与。
- 国外の関係機関などとも密接に協調の上、海外展開の総合的な支援事業の展開を図る。
- アジアの各国・地域に加え、中南米等の新興国に対しても積極的な海外展開を推進。
- 相手国のニーズを踏まえた発信を確保するため国際共同制作を一層推進。
- 当初から海外展開を念頭においた番組制作を図る。
- 権利者団体と調整し権利処理手続の一層の簡素化・円滑化に取り組むことにより、既に放送した番組も含めた番組の外国放送事業者への提供の拡大を図る。